

ろく は ら みつ 六波羅蜜の実践

布施

[ほどこす]
惜しみなく人に親切にしましょう

持戒

[つつしむ]
ルールを守りましょう

忍辱

[しのぶ]
不平不満を言わず、堪えましょう

精進

[はげむ]
最善を尽くす努力をしましょう

禪定

[しずめる]
心と体を落ち着かせましょう

智慧

[まなぶ]
正しい判断力で真実を見極めましょう

ぼたもちとおはぎ

お餅には「五穀豊穡」、小豆には「魔除け」の意味を込めてお彼岸には、ぼたもちやおはぎにご先祖さまへの感謝と家族の健康を願って墓前やお仏壇にお供えいたします。皆様は、「ぼたもち」と「おはぎ」の違いをご存知ですか？実は全く同じものなのですが、呼び方が時期によって変わるのです。

では何故、呼び方が、二通りあるのでしょうか。「ぼたもち」は春に咲く牡丹に見立てて「牡丹餅」と書きます。「おはぎ」は秋の草花である萩に由来して「お萩」と書きます。そう、呼び方は、季節で分けているのです！「牡丹」の花は、大きな花ですから「牡丹餅」は大きめに、「萩」は、小さな花なので「お萩」は小ぶりに作られることもあるみたいですね。

季節の花を意識して食べ物の呼びかたや形を変え、ご先祖さまの供養を行う、こうした風習は、ずっと変わらずに残していきたいものです。

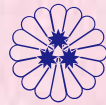
※地方や習慣により諸説あります。

お墓参り

去るもの、来るもの。ほどけるもの、結ばれるもの。見えないもの、見えるもの。無数の縁の中で、無数の縁があって、わたしたちは誰もが今を生きています。

去ってしまった大切な人、両親、先祖とのご縁はその中でもかけがえないものです。仏教では自分自身と縁起の道理を深く考え、仏縁を自覚することを説きます。

入滅されたお釈迦さまのお骨(舍利)がインド各地に仏塔としてまつられ、そこに多くの人が集うように、先祖が眠るお墓は、子孫をはじめ縁のある人々が集う大切な場所です。季節の節目である春と秋のお彼岸には、お寺やお墓に足を運び、先祖の供養とともに、今ここに生きている自分の深く広い縁にも心を運んで次の季節を迎えましょう。お墓の前で先祖を偲び、自分と向き合う時間を作るお彼岸の慣習を家族と一緒に実行したいものです。



天台宗 「シリーズ年中行事」④

お彼岸のしおり



発行：天台宗総合研究センター

天台宗公式HP：<http://www.tendai.or.jp/>

お彼岸ひがんについて

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、春と秋にはお彼岸があり、それを節目に季節の変わり目を迎えます。春秋の彼岸は、それぞれ春分の日と秋分の日をはさんでの一週間を指します。どの家庭でも、この期間にはご先祖様のお墓参りに行かれると思いますが、本来の彼岸の意味とは少し違うようです。

彼岸は梵語ぼんごの「パーラミター」

に由来し、「到彼岸とうひがん」すなわち彼岸に到るという意味で、お悟りを得た状態のことを言います。仏教の教えに「六波羅蜜ろくはらみつ」というものがあります。これは「布施ふせ」（施しをする）・「持戒じかい」（戒律を守る）・「忍辱にんにく」（苦難に堪え忍ぶ）・「精進しやうじん」（たゆまず仏道を実践する）・「禅定ぜんじやう」（瞑想により精神を統一する）・「智慧ちえ」（真理を見究める智慧）の六種の行を実践することです。普段から雑務に追われ、なかなか仏さまの教えを実践できない私たちですが、せめてこの一週間は、六波羅蜜の中の一つでも実践し、仏さまのおさとりに近づこうよう努力したいものです。

また、この時期は太陽がちやうど真西に沈むので、『観無量寿経かんむりやうじゆきやう』というお経には、沈みゆく太陽を拝み、その方角にある西方極楽浄土を想いなさいと説かれています。お彼岸にお墓参りに行く習慣は、日本人の祖先崇拝と西方極楽浄土の思想が結びついて出来上がったものです。お墓参りをして、ご先祖様に日頃の感謝を申し上げると同時に、先ほどの六波羅蜜にも意識を向け実践していきましよう。

